竟騰胡蝶枕

完

へ13
1963
64

京都帝国大学図書之印

裏謄胡蝶枕

自序

有田不耕倉廩虛而書不
教子孫愚吉凶不知
世子紹祖居弓矢而
不學何以博學名

へ13
1963
64

ゆ〳〵こゝの中所時みな我浮るハ夢幻
聖人しも稱ぜらるゝ所なきゆゑ
鄙ども徳を論ずるの人丈高楊
とゝゾしも辭を實たるの安なす
墨よりも甘き紙煙管沈義羅
主ハ居なるゝ吉野山の望りゝ不

序一

知ぬ〳〵中妙舞の狂言再乃月
を雲ゑが漫物語旅ゝり過ゝ
邯鄲の夢ハ性枕搖めゝ
肩疊みの中ゝ眠る是午睡中
の浮世ゝ故ふ乃樂ゝ寝ゝ
う インニヤ 蓋 うインニヤ 竟 瞬ゝ 杯 繁 桃 ゆゝ

うんめん

享和二の

著述樂齋

廣長識

宮内廳書陵部

目錄

第一　蝶枕

第二　蛸のまくら

第三

第四

第五

竈贈胡蝶抛

第一

孔子少くして教を曰君子は言を訥にして行に敏ならんことを欲すとなり夫傾城買を示して乃言を[illegible]
[illegible]中に花あるを出して葉数あるを賞子の
[illegible]を[illegible]あれば[illegible]
言を[illegible]諸事の[illegible]ふ威あつて猛[illegible]
[illegible]は鼻毛を[illegible]己惚鏡も西の海く

さらでさへと一夜明くる春任言鬼が辱のあくる幕

カチカチ〳〵と明わのくのうれんよ一家店ありて朝くうくんぎの綾錦

てくらぬきくみぬくとそもそもやその名もあるなおまちとて客筋

美羅のあうさ女八丈の香小町とくるくるとる船ろ住居もあ羽織やのむくしハ公家の真ぐ女

みて悪党ぐりよかぐ見られあくもくのもあ毒やの源五郎とてま奴のらる者かの古町

を玉みして日下ふ繁昌医る日もまこと恋ろ姫馬やぐ〳〵ぐるあるかあくハ三千石

城志るよ〳〵せろ人の恋慕あるう親伝の病家形形とて心ハ深くまうぐる綾ままの歓

世者そ名もとりみ綾ろう見と詰のそく姿源氏の名ろ業平と進つねるもみそう

こ〳〵年よ又金を部と勘待ぶの井の引合ぐきあふ術よく意術やの志ぬう

ぎよ志ぬ〳〵ち

ぬ〳〵ふ伝信の

茂竹

ゆ多蟹さみまつ〳〵りのてこさうまた

綾ろふ

多もとくよりう国を多くいるげどみもこく

体まよとそいひうるみさぬの

長竹

ぬろ〳〵ぬ

ごさうまたまろそのおひをあまたとまろく西

糸治うお楽よあり多ろ

と勝うみのうばあ伐つきてひそもしる

むがと姿ろ〳〵もたろう美ぬやあいさあとあろもいとあ色ろるおくあ〳〵体こ〳〵も

いあハ月との治そ西〳〵うよ住ぬ毎月と国の怪ふろくおまちもはぬろあ〳〵ろのと

よあぬく〳〵ふうれ〳〵ろとれぬろ毎月よ米あろあきや爪もづれ新伐おくへ

そのかぬんさもろ西りしき恋ろ〳〵もころれ機の色晴さく それろとくもおて人目ハ心

ありけの年のあ毎ぐこまぐ初恋のいひうあく心源氏あ系伝ハ淺茅あ〳〵あ新の形

心の新も行まきう時金のあまつのいとひおく美物おこさうあうけるとおまちい

ころ一りよろうあのろ流石ハ公家のありれとて一首の歌奇とあこうかく初恋あも

人目せく信義物を元物とたのむ歌物のあくひあ月りとのつ〳〵に引ろて三家店

の内の系ぬ綾ろ〳〵元綾てよりハゆ〳〵り〳〵ま故今の住居志れ系の源も今ハ淺ろ〳〵と

年よ見ひ見ろろろみのかよひハせ〳〵とろや奴源氏ろ妻のおとていあこんまゆうみて

二人ろみの使りせ〳〵

をぬ西まけどり

お名

志てゆたりまろ見ハ今のあけの

せんぎあり　ト　なよ〳〵おづきまよう八幡こうさあひそよ〳〵絃ばつて彼〳〵
ア　つだるみ　人〳〵　名わてこおらよ八　丈よけよ〳〵　きく〳〵門樂へ　格子
きこんと　親　おそく　せきこえる　日　数　ちじ　浅ゝ　ゝ　めの　俊　うよ　きを〳〵　の　ゝ　ゝ
世のうきもみ　茂　ゝ　ゝ　ゝ

さてうぬかくてらんくうに行てまうら屋く
叶古地へ参りまゝサ　そなへいを指ハゆるゆるあるく
あんてうこと茶屋〳〵おゝ〳〵　唾おかるりきんも　トいふより江ハ屋ゑく移
も京〳〵ゑのびるさ淺ゝ〳〵もり〳〵び淺み麩を俵〳〵ゑそ〳〵ゑとゑ入れと松も異の
増え山　茶まよりたゝく咲恋を多治の桜と梅桜ほがびを形ゑあゝ者の思ひ　海
かゝゑよきあゝと牛のこゝろ添うゝきみ茶店みゝくおゝゑハゆゝきのゆゝもみの
伊ゝあゝと新自腹み添ゆゝ咲〳〵ゝゝゝきゝゆゝまゝゝゝゝゝゝ

添ゆゝ　ム、ソリヤア　よゝきゝゝと　大きにゆゝゝび一数向せんといゆゝを祝儀
さけゞび呑のぼい麻あゝを　み伊ゑせゝとお宝りのひんやゝ徒利茶碗
あゝてひゝきゝゝ麻も咽れハ　**添**　かゝゝア　あまハどゝゝゝと　**ゝゝ**　ホンニ
ゝゝいんゝゝとうかゝひゝみゞの帰つゝゝゝまゝゝ一ト

あゞといゝゝずハゆゝまひ　トゝゝゝゝゝゝ

あんてもかまさんとやアこのとくとゆ
りのさあんまり骨折損ト立あがめく

おびんきもあ深かうハきくく
してやきくてそハ出くやく

第二

思ふてとかるのそねたてて深世とく歌ゆ目乃
なるき深ふく登変ゆ紛より内丟関ゆあハを
こひ男人助きまゆ斟面して 深 ヘイ私ハ不の義

でもこさりやせめこるくハヤされやせぬあくぞ
こさりやきてゞアとつくりとおゆゆあせくやこて
のゆあ具形さ多ゆあ斟さ多ヘイ淺ニてくる乃のるすく
こせんきてて〳〵う不のあ多をつきてヘイヤとゞげ
かくゆこさりやきとう性ぞんつれくおゆけるのせく
きくとつ〳〵やアかゆいゆ内毒ゆ身ゆでこせんきとう
夕紙くうどゆせゆくとちゞげてもそくハヤんてかくアと
ゆくりで漸くけみをそつけてゆ〳〵ハ深もりんゆ

お嵜ヤもかあ者うこさりやうこ

上目をこまりくうを儀をこかしこ聚まりく

あぐらゐ踏くこうそ一方を れ れ 彼岸とつかハワしやアきゝひてござり

いひうる上まく添あゝ

やゝ何のサおめ〳〵若いどゝしやアなるあゝひの世上で

ごせくまと ソコテ こゝふ彼やゝ者やゝ何うあゝに ハイ 又百あ

おられあせくそまとやアあるもあけてあをうう

て仕舞やゝ次ゐんよ安ひのてこさりやまどゝふぞ

清水宜しと

ゐゝあやありまゝ出けいとゐるハ心のさくこうてかゝりき

了簡定ゐれよりひそうまゝとのまけゝうをつけゐれハきゝうてんのてゐまてこゝめ

助 ちまハ昭殺をゆゝ大変にまれるあゝハ大ゐやとあゝハ必定と

くとして居のゐ何のゝんじゐもあゐれをあハめれゐやゝみ赤鬼もあんゐゐ

了簡して今ゝ彼十五包を

ゝかの添あゝゝみあゐひて

助 大変

コレ 添あゝとやゝうあゐ彼自家の

やゝ西お遠もゐ彼よゝ

とゝく先ハ添ゐゝハ考てゐゝゝと

あゝを舎ゝ彼も考ゐ改をつけ

添 へゝく

左格でこさりやゝ

ゐゝゝ

助 さゝるよゐゝ

あゝゐ何ゐゐもゐゝくのけ見ハお分あぐゝゐるあゐ

おまゞ安をゝゝ拾てくやゝれゝ娘の西ハ

退て動乗もあゐゝゐゐ時方より何清ゐ及ゐん

上彼包を五生ゐぐ添五ゝハゐんゐ遠ゐ小包とゐゐゐりおゝゐ報をゝてかの包

を見れハ彼拾あと認めあり添五ゝハゐゐこゐり報ゐをゐいとゐ大き

ある日を
むき出し

源

コリヤア 吐しもあらぬ人をうそふしる
コラ そんなるハるワるのねくとくおきよ志
あんぶ訳拾あ へン あつらゑーいおひがまぶおまぶ
いよるヨッ耳の穴を杖でわりつてよくきゃアがれ
コラ がきッあそぶそるハあゑくまぎゃアねくよそそ戒
あのらんエそぶてるぶをうゑくぬをまきてく
そ訳拾ありぎりくしんおらハ今をる彼を
うるさるハねくよ安奥の引れぎゃアあるめく

そんあ源めくゑまぎゃアねくこちゃアお煮雑
ゆくくらてゆれハらくと思てつけよりのくふて
ゆるぶそらんエあのうゆ帰よぶちこうてきまよ
きくいてうげんよ馬無ぬりせ食ッ出せつんぶるゆん
ゆゆんり脇ッ立きそゆアこちのるぶハうまひ
佐るヨをゆそゆアがるこか今がいゆるらいてハ付
みをるるくもハそる而て行くこせるハア 初めく
出るの登蔵ちゆア人の姫戒ゆそくかひこんて言

如何よ夏やアがるうちあらアニなさして武士と
見つるゝゼぐんのよのくとうおれようやアみとる
ざかの者ハそうのでいうなぐ源金ハそふハちつとる
さくゝがさるゝ見くうてのうゝぐてん上してもいぐん
相手ぐさせく　のあるのくらよいそれぬ悪口雑言助太まもさきーせーぬ
刀の柄よるみやかけんとせーふいやくこてハ大るのホとかんかん
しておくゝ見くへりるが大勢ゝも来れやーき中ハ大騒動をあせりまより今ハ人の
半く角ちゝを数の弟子召ーー安ーもちゝくはるあくかるやーにれ柄ぐーー長
居をしてあの通りあきぐそぐゝ　ゝくてきるしあの騒動ーあるハ自然入身かあぐ
とりぐれよ殺せと仕られて角ちゝハ五郎の仕落やして又ハ源之をあけ源ちゝる
あバまゝきのるりハまもまきき大
まぐぬき大あぐゝうてあゝ

角ちゝ　扨くあゝ源みゝうゝ隠く

中条郎ありさるよりて合ゝ百姓出次ゝ
みくいぐ郎くくるゝ
百姓ぐーー整答認ゝ出ーー
みくいぐの通イいれバ

源ちゝ

角ちゝハ又仕損じくハと知ひ又
るんさ郎百姓ウいこるさア
さゝてーアゝけのいくのんさおまもけんるこゝさア
いのハきゝ出エよゝれゝるいゝゝ一ト通イーアア
いゝゝ抜サ郎あゝゝうゝよくハせんさのの　トふとうまきぐ
を出ーー合を
ぬのゝ
懐中ーしゝれく角ちゝハ赤三色の紙を元ーーを上おまち親ゝ緑地の袋ゝ入れを
かーーる侍ゝゝむまちハあるあせふぎり人アの糸ゝゝ引ゝて色のくゝろゝハ
とあせんかゝるもおゝりるありゝゝ五義ハなりしがゝゝ発動ゝて数を郎の
用人どもあつけかゝゝれーあせんちイ大騒ハ立腹ゝるあゝ次百人とも

後ラ〳〵つきまれとまるどき言葉
みせんくるの〳〵後ラ〳〵つれ来まで

【歌】コレ　不留者の後二句

ちるもくハよのくも綾しくひるをまぢ〳〵この秋の歌目
ゐ志〳〵ねども今日のく〳〵そるのゆ〳〵あちんぎゆ〳〵とん
白髪かるることおもそるんぢ不留ゐ飾〳〵き志後
よゐ〳〵ぬとハ日くとも　とゐ志ゆ〳〵ぬ　源ゐ飾
とゆ〳〵ぢ問口雑言先祖〳〵対〳〵立ゐ〳〵せ志〳〵
人間乃根性〳〵あるゐ〳〵バ後ゐ〳〵と志かと二人を
るるかけいひつけ切腹せぬ引きゆ〳〵者ハ

叶ハぬ書後の雲霧を志るゆ時もゐハ入〳〵ゐ者
ゆ〳〵にあまてに志んでゐるゆ〳〵ゐ者とゐりひるて〳〵ぢ
弱気ぢ見事しいゆゐハ白ぢ身一唐土の秋玉ハ
無鹽女ゐ素顔をいつく〳〵みしゐ彼ハ素顔ゆ〳〵の
木〳〵ふ〳〵しいひつきさ女ゐれと学文才智人ゐ
乗そ日本とも名成湯ゐ事へる眉目よゐ
けして荷玉白銭好ゐ者ハ引ゐ人ハ志〳〵
ゐ〳〵ゐ銭ゐまゐハのぢを志つ〳〵る源

あるべきなり　まことに必定さるべきなれば人も世間乃
あはれ　あはれ　事業のあるべきなり　おぼえぬ　あるべきなり　と　はと
とまりとみきんと　意うち　我　ひとりしらず　動南
きるモノ　行暗　内　ひく　ひかるべかるべぬ　ア　生かるべ
君子　小人　罪　悪　人　悪　ア　世間　あん
の　貧　富　貴　賤　修　治　あるべ　分　は　定　乃
大　病　ある　べ　ハ　ア　と　いひ　ひ　ぐ　ら　も　ろ　せ　ず
不　ぎ　ゆ　う　ひ　よ　ら　し　く　見　ど　う　一　生　の　親　子　の　別

うも　きれぬ　ト　ほ　ま　く　ウ　、　わ　れ　と　ま　る　ま　ま　く　ま　ん
も　ま　ひ　け　ま　う　ま　ま　り　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
を　ま　ま　ま　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
う　う　も　る　か　ト　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ハ　け　世　乃　わ　れ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
き　く　し　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ん　き　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の種ゑさせる村鳥寂ぐ鉄つぼ手て鳴くも死者
乃藤蔓の高形りハ今鉄ちりの左門と隅田川系
れタ雲イときゆる宮時くあづ母幕ゆりく
ド傷後神と神とり鳴くり生れ人目乃ゑを
貴毫の松と思ひ一ひ三殿の腸ハ記さ紀三国
和ちくる鉄ゆくくよ西国の色ゆ者ゆるも五郎
ちちのゆりハ十んど笠合報ハさんとの系ちんじ母思ゆろふどの主ゆう
ちくくよ主ちハ上田のゆちりど女主ちゑ結婚ゆつの主
ど女系ハ系老香玉鉄夏の口ぞうちよ座をゆさ主ちよう思ちとづうう
主ゆ報も報道イくハさすクゆる母ゆ者ちちるる二人ゆちり鉄ちくく

ちくくちんぢう出主と
さちうーちう

長ゆう

ぶゆくサ主ちんぢうと
ちちかけくれても主ちちぢうさくくれハ
死ぢのさ友げゆちんとせ一き主ちちこぎう

長

コレ

ゆゆくくうくハ若系の種系

コレサ

色ぶちうぶゆ

よとあくよより死ちゆゆくゆりよ ゆゆぢと系よこちく
りもあくちふぶ コレサ つりくも色ゆ者といくれる西国
での長ゆゆぶ 助主ゆくと思くちくハゆよ吋
嬢でく報くくせゆサ 死ちゆふと思ゆ掃ちる
ゆくく主 盛入くんぢるぢであるふう二ア ちんよも

せよ　死なぬ了　第去て　そなせく　義ひ　間ハ　ハテ
誰ゝ　死　なもの　なる　ものさ　死で　義ア　咲ねく　みよ
生く　所の　ある　志あん　モヲ　いろア　ひるの　長ゆめ　ぐ
絹の　ア　ものく　をつきく　志ある　て　ねひく
サヽ　サア　ねろ　乃　沢ハ　ろて　ゆよ　先く　ワ
何せて　こと　なる二人　絹さろ　ちと　ろ　成　とて　ゆ　ろ　件乃
三ろ　ろ　ゆき　氷成　ゆく　ろく　ある　ゆ　ろ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ハ二人　ゆ　成　つき　ろ　ろく　ろ　ろ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

なぐを　鹿の　さろく　ゆつ　ろ　ろ　ろ　ゆ
ろつ　ゆて　裏　ゆ　ぐ　ろ　ロ　ロ　ろ　ろ
きぬく　長　ナンダ　きゆ　ろ　ろ　ぐ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ふるあれをも侍をもゆつそうおくのゆそうよ
擲ちやアがくそうそうで口をきくてくるそ　ニアア
ぬしゝうも吸してうゝ侍るゝいゝ稽ゝうゝ口ひ
ゆんして新ゝかきゝるのサトくそ長めゝ　長　かくアごみ
せん塩ゞかめくぞよゝぶんまてゝゝゝ一トさゝゆて
ゝくぞゞゝるいゝくせるゝすぎやアねくニアせんく
いきゝなもくゝ贈ゝくゝ仕舞ゝゝゝゝゝすきるゝ　ト言ふ
いゝれゝゝもゝるゝゝハもきゝよゝゝゝゝつゝゝゝ
ゝゝゝきゝゝゝしゝかゝゝ成つけかゝゝゝゝ　長　いゝくゝゝん喧嘩ゝく

いゝトいゝでも尻をゝめゝゝゝ来るモヲ仲達の酒ハ
乃免ぬくぞコヲかゝゝゝゝゝ

湯治をしるせしみ溫泉場ハ三番づけ大あきなく
いくあさかんよアノ居るゝ湯の樣子ハ
膏毒豪ぐく脊がいるゝひとしく却るゝ〳〵あんつも
つきなく荷ぢよしそれ申まゝ

浅ニテ ソレハ大きな

こゝ水けなへ却さんゝ切るされハ樣よゝとゝあ母を
なゞゝゝゝゝゝ中して早〳〵ゝ浅よゝく走ゝゝゝゝゝ
中の浅

ト書ニ見つき走ゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝ

あとハくくと
せきられた

捲

そこでさるつだり叫〜合ハしいの所り
そこ女がいひ名つまゞ物のるのさ所で内く考えて ま
くら源さんを擬郷報ととて皆なゞよりたくう
ていひ〜〜さが見ても長みくさんといつ所のきバ
嘉きひ名〜〜いの所がゞそこで見ても赤ゞて長
さんハより乃成考くいる内をゞれ〜〜さ乃
なんとワるん時ハ乃るい拙さそこて ワ〜〜を減
さんと二人りさどゞも男ハいゞが尾癖の乃るゞる

とんとあゞるゞれうまさらゞて〜〜るよ金の一束
迫くあきゞゞ源るさ 一アざんとかるひ男の命を
金ゞく買ゞ〜〜よゞゞのさ所う金ハゞ〜〜るゞで
工面をしてまゞいゞゞ見ゞく減さんゞるお伝
してかくゞ〜〜さどゞで拙めくも助をゞ上ゞゞの
ぜヘヨトのゞもみゞるワゞくゞ古町ハ竹よりかゞ〜〜くゞるみゞ所〜〜く **すぢ**
そどゞゞそ〜〜ゞ助ゞゞ見ゞ〜〜ゞ有金金ハゞ〜〜ゞ見ゞ〜〜ゞ方ゞ減ゞゞ
捲二さんどゞ〜〜ゞゞゞ付工面ゞ出ゞ来ゞ〜〜 福どゞゞ〜〜ゞ
ゞゞ二二日雪時ゞがゞるゞかゞゞる と有ゞあゞゞれゞゞ見ゞゞる〜〜ゞ生ゞ
さきゞゞゞハ減ゞゞり 捲二ゞゞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごあひもそろせぬ　つくづくどもまゝ母のあんぎ
を　ねがひあつまるに　下されまの命をお助けわれ
モヲ　ゑ　ゑ　ゑ

第四

歌ハ人丸くらゐハきんぢく物ぬし　ゆりひの
時雨　時雨ハ時ハかりなり　時雨ハ時ハ時雨
妻とゝるゝ　刻ゝ　てかゝりゝ　てゝ

口吉ゝゝ　今ハ八重妻ときれて或日第四の養
時雨　十月の形ハ悪七夕のおりゝ　思ひ二きの小神　ゝ　ゝ
しぐる　古語ゝ　ゝ　第八ごろゝと　ゝ　ゝ
をゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ちゝ四方のこえん　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
みゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
雲ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

八 [illegible]

のきあん [illegible]

昔乃 抑 [illegible]

る [illegible] ア [illegible]

ソヨサ あんでも [illegible] ハ [illegible]

てきさう [illegible] ト [illegible]

あ [illegible]

今の [illegible]

[illegible]

コレ [illegible] ア [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金成のうてさきらしてさきをでわんよ俵ハ高ゆ迄も
ぬ〜乃唱ハはまらせんるんぞ手ぬさんよ惣ろん
〜と迎るあんまりぐ〜ねさんと
根のこと葉さく後ようもあぬろよ
そらあと思ふ所をおこさかく
ねよ ねようもいそんろのハ和も走るさる物町がてばりちつと
いそせてきんあく〜みねる花をあきこうてき所ハ年〜さま
濃さん寸移るよ俵中いそも走〜ぬ顔でいるん
まハあんそせ〜をうねりいんうるよよ走るんん
と トとかく きく

[海]

ねサあうちょァねもなる〜きぬ〜

[海]

ねさ〜ハせ〜とぬをうれと
理き寝りよ俵ニうれハ

[海]

ぎゆ〜ぐんせんとねうし

[海]

のねと樫二のを男のむもよあるやうさけゆ〜よ
成蔵賣人のきるを定〜樫二の義を放てあるよ
ね トよる主町 狂言衆 新をねぬ〜ぬ

[主町]

ぬ〜ハ樫二さんとうきそも
ありい成ゆ〜にいひるんをうぶ法とめハ設〜ふん
うねと〜ふをハそぐ残けぐ〜ハ設〜ふせんとうぐ

[浅]

ゆるねぐ傾城ふハ
あうふね トいるよ主町ねう〜きあ ありひるのよようふうイをあうと
父ゆ母をを〜とをりめを元出〜死ろんとを〜をを元く

[浅]

俵更死のを ニア まて ハテサ をあまるあひ

[主]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小づりをぬきこ[illegible]ゆきをめてけ村りよう[illegible]
ハあるを[illegible]ものかくるき[illegible]
[illegible]の[illegible]ある日[illegible]
[illegible]
[illegible]

男ありハどんなぞもよりあり以後 [手] わんそ

そなぞなりいしゝ ト 手ま村川ゝそれ〳〵ぞくいろきゝや

まゝといふよりそこ町とびゝろ の新吉あゝそ陸さんゝゝ芝ゝ あり

ひまきそ小柄のるゆ細くゝと 知あある手町ハよきゝゝ

手客人の名ハあんとや志ん さく [昌] あゝゝ村

川とや志んゝゝ ト ひよりそ町幸あゝ [手] 昌ゝけさん

よくそよいそく 知やんゝゝ陸さんの落さある

るてあいしそよ 知を勤名いゝや ト そ町ハ いやお勤

うゝゝあり以後ゝゝゝ小柄をとりのどそんゝもねゝゝ多もるきおゝゝ

後まつやよ村川 大ゝんぐいゝやをあげてワるさゝぎ手旨のあゝハあゝぎ

ありあんのむくを言ハ昌ゝ上ぎハ芝ゝゝの八さん あり あぐのむゝの八

とびいろ之面のふゝ お蔵のぐさ歩ゝちそのみ正ゝぞ おがてん乃

まゝるぬ形ゝり志ゝむんのゝりハあさぎゝてどよゝハあの面蔵そあぬき

のそゝを縞めん袖口ゝりひゝ色 ゝと色縞ゝてかゝども 体ゝまつ 魚や

むゝぐゝきゝゝどもゝいゝぞてゝそハつきて約 那のるゝきぐねゝいゝ

絶しゝるゝもゝくゝで初舎 別ゝこのぬ志と之手きゝゝしゝゝれよりゝ

日ゝと 裏ゝるかよひ真くいゝ手あざしきもゝやのまくゝさみゝん手 丈

あぐゝゝ 新ゝゝかゝどもゝ あゝもゝ ゝゝゝもゝゝ 待ゝねゝく

村川 コヲ 手町ハあぐゝこあのゝざまゝぐこあり [錢] あん

らんハ村番のゝゝらんゝげ あゝこりいゝていゝやの巣の

と今いゝそあゝつくいゝ形んゝそゝそゝゝゝゝらゝ

んいつゝゝもゝよゝ知 ト けびゝゝの者ませんゝゝゝく新造

あんあゝ世ゝ内ゝゝ多ゝあけ乃

むらひとり村川ぐうちうまぎれもしーやうことあるとぶも主ろう分けて三多ゥ
みもあるのかよひくるかぐりくくるの沼ぐりござーきをそめくきあつくく
をんのうよ大あぐう祖のあるきぐるるきせるうて舞のはようき 村川
ゑゑゑゑを吞手町を行うねのえあうぐーて彩造三人あいてのーて
コヲあきぐーあるを意ハるんと見ふを町もあんまり
つるくんぐーねんう産業をふうぬくきあつくく
産で行くくこをてもちあつとふきぬくいつでもくく
イヤ今日ハきあうぐん日ぐゃレうん病ぐききよくぐ
ゑるんとてあきるん沼くゆう行る 村川 彩造
ゆーーハねのないひるんんきをあんくんめつをあんくんもぬくーるん

物くく居るんまよ 吉げ秋 まぐ知ーくく知りひるん
きくんあきぐであいいん ト かきのの まれく 村 ソヲいくハサ産業
ハヤんさうでねんてるの産とつふといるくくん ト 坐のやーる ちく町ゑく
きうり日りあぐーちちるあ中ーー上ゑ八ねひ帚の橋のさうあり乃ゑハ本八丈をかきね
ゑるよ きぐきハあつくさどんちるあひ小納戸 行くるのくく をつけ産るあるりて
あるるを 吉 気を引いーくくるぐいつを頭ぐ扉ぐ
きくく
被ーんぐ ト くバ 村 ヨヲ いつもくるんよいるくくんかる
ぐくるるつもくくんよる病氣くなるりて 吉 ゑん
る自由るる病ハのちのせん ト あいるもあさよ 村 ソンナラ
いくれく

おもきとなせ寝ぬのごあるまくのきんちゃくで
なのりゃるる 手 アノだらしんまぐそんる 村 ソシナラ
寝るる トゥやるる言ごみ 手 ぬしのなもきんせんよ
男ひうけらき
うつうつとたぐを四るをゆるる手四ごと思ひ
るんしていひるんきてうく 村 ハテ是程よかようひらる
きんちゃくも 手 誰しもかようひきるんしてをるの
きるきぬを四ハこアそふ思ひるんし 村 そんるら
ひちゃくそんぬのう 手 朱の猫をちゃくゆひきせう

十八

撰紙の手ゃくにるうんゆくるを四ハ 村 ナニ朱の
猫も時ゃくゆひるゆくゆくまづ承ふ トゥひるそハ 手
そんるるうヤしん去るゆゃくうきまつとさぐくるんをるく
什里てを手町ゃくいをきる傾城うき去るゆゃくをかき
いきてる撰剃ゃく拾紙きつゃくといゃくきてハ名ごろう
う里の名ゃくゆ去るゆゃくアんきサそれよつけてゆゃくへ
おゃくゆゃく細工の木ゃくゆゃくの小柄をりつゃくいるんをとと
きゃくいゃくさどふぞそれて切りそふ知へ 村 ム、知れる

ヨシくく　金極春松ぐさあんぐ〳〵そのハのてぬらんぐ

きてく　急なのつく来る指のやうぢんして待て　ト此よ千町ちる陶さや浮後る

むりひの茶や村川ハ宝ぐ〳〵よ言る村川ハ久茶ハらぬあく〳〵ぬ小柄のるすハ彩あれうとまたハ思やるしつう管

よくきく〳〵ぬるよ考ぐ〳〵ぬ小柄のるすハ彩あれうとまたハ思やるしつう管

松あ品ぬ〳〵よくるやいる乗後のお後元松めて千町くハ仙法垂申とあるる

待りねを町りむりひよ来るく〳〵茶やよいひつ手を町〳〵ハ約束の小柄を海ぬる

より長く来ぬ〳〵いそ松や乗後の金るや〳〵〳〵彩宝七品ぬるく乗後

宝りぬ松宝やの千町ハ思ぐ〳〵宝の乗ぐけよ〳〵一宝法ぐ〳〵宝

伝り　とせんと思くどもるやの〳〵のさんるくる千町ハ小柄ハ〳〵〳〵ハ計まるみ

〳〵乗ぐけ宝ぐけて宝伝ぐ〳〵このぎ〳〵ぐと思ひ松あ〳〵死乗茶後

一乃宝あけてむる後来ぬ　もろ咲　あ〳〵ん〳〵る宝ぐでハりる

千町りるり刀を引ぐる〳〵

いりぐ　ニア　りつちのやー〳〵ふるりを一面ぐ此〳〵く

あ〳〵んりんぐ〳〵やう見ハみんなきく此〳〵見ハお

せるるよりりぐ〳〵ぐるるぐでありいんぐ〳〵るる

此るりもやーんせんぬ雑ぐ言でりいん　ト言より宝ぐハ

宝ぐばもりりぐ　あろ咲　宝ぐ言ぐ言

やりくよりぬやあげ

小柄〳〵やう死んぐく誰ぐ宝〳〵ぬやう宝ぐ

ありひりりんぬ言ぐく苦帝ぐ言ぐんぐ言ぐ言ぐ

して此上ぐりん〳〵　ト言ぐ言ぐ言ぐ訓よ　宝　むろ咲さん

千町も言ぐ言ぐ訓ぐ言ぐ言ぐ言

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せてあり　トいつも後はもせびあき　千町ハりとう公家の息女なれどもまづ
その人よ附合よろれて生く名ごりをあ〳〵入かりう立かりう
嘆乞　寺あき　茂秋　あり　あ〳〵ん〳〵ぬ〳〵ハ病気ゆりん
うりよ〳〵発てもさてくなんしゝみ命ことも　なり
れ〳〵ゆく〳〵かれ〳〵次短冊さるんさるゝ　トある千町
へんじもいそぎ　あきいる　　今後松命のひ言ふれさんぐ
きるんしてちゆり　くとせきさていたぎいぶん
しぶ　ある言葉伝きをなんしよ　トいつよ千町ゆるハ今ゆるも
してと見ハ狂　千町　ぬ〳〵ちもりちもとうふハあり
る後ゆるみく

いつぐろ〳〵さゆ〳〵ぶぜう〳〵あきう一生のとうきう
ゆり〳〵いしゆ〳〵〳〵と思んさりとや狂かれ〳〵おに
とりくハ生く　ゆせ　ちよあよさふゆるひるゆ　我いちん
ぎをそう〳〵　　トカを　生　ゆんよ
さんみ去れるおゆるかゆれいい次　ぬ〳〵ちゆんしと若宮をかきん〳〵ゆ
ぬ〳〵ちゆんしんと若宮をかきん〳〵ゆ
狂ゆ〳〵ゆゆう　あり動ゆん〳〵そして〳〵ゆ〳〵
あゆ　梯　筆ぬ〳〵ちに上ケいたゆうかゆみと
思ひゆん〳〵ていくゆゆ〳〵にゆきく　あゆんゆん

ト云ふ帳でひして袖を涙をたれる村川大じんまちうねく
さんそく志きりとつるひりの多やがつき絲りやがる手町むりやりよ
金が欲の浮世みく居るれしるる沼と赤し橋と生るよつれて行
婚あい村川家相ぞねみて結ふきてるる手ふく かるごるつきそひ 銭
雲やらるとえるより 村川 ヲヽ 知せ給ふ 先ゝ見うろハ
大よろこびふく

ふ店の花と飾るぞ シャンゝゝヲヽ 月出さしとく

コレサ 手町 ゆかよひハ あんと志ゆうろうゆうろうゆ ト

ふる手町ふのハこての川形ふ志ろまゆやとりて死のんこてとむ
志ろとろとおひろ あをもいゝ沼ハいろりしろ村川ハうきしちこ沼
や寄るゝゝ志ゝとすのろあさろ 村 コヽコレ 手町 知ふめくの
酔さふれまるゝぬ舌ふく

ふしるる小柄ハ見これわき ト いふる手町ふる稼ふ 遠ふふ注文ごとろう細工

村 ヤレ

そこで見ふ伊世ゝゆるハよゝろ所ろ寝てかゝよ
あんさだがゝしん寝せぬ先ゝうきせろ都ふ紙
いやもぎんむてんのゝ所世の知よふる知ふ
入の口祝ふる床ふる伊ふ ナヲ 伊ふ見 ト 所形 そば
ふ秘ふゆふる巣ふ口三味せんさんふ志ひゝ志ひろ沼ひ志
中ふ町ふろゝ小柄ふ法ふ市しゝ逃ゝ志ゝ知りゝと川中のせんふゝつき
て見ふきゝふもの沼ふ陸ふくの暖ぞひりふ世でん南世沼ふ
伊伊ふふるゝふふゝゝふふんふふふ

物くさや（酒）

のそき　ハ　ゑ　ゐる　住せる　死るぬ　肉さく

トいよ〻うえ　ぬさげせと　新も　形ハ　ものきえ　こ　こ　ハ　ぬ　ぐ　ハ　ゆ　す

こ　ハ　生　和の　中　て　村川　ハ　住　ものの　ごと　く　ものく　ぬ　さ　ぐ　も　あ　ま　ま　ま　や

ぬ　く　と　も　ものきさる　そ　所　よ　せ　ん　ら　さ　ら　く　形　所　ハ　ゆ　よ　あ　ら　ぬ　で　村川

大　じ　ん　と　ゆ　く　よ　ら　ぬ　て　ま　ご　ら　ゆ　も　ら　く　げ　の　ゆ　く　さ　た　ら　の　つ　く　目　形

ひ　ら　く　せ　ひ　り　形　く　ら　ば　る　服　ぎ　ー　ぬ　づ　ら　ハ　ゆ　ー　ぬ　ハ　く　と　形　を　ゆ　み

と　ぬ　ま　く　彼　の　ま　の　き　ま

あ　も　陸　ら　ハ　家　寿　よ　対　今　ハ　牢　宮　ま　も　赤　さ　れ　く　体　長　ら　ま　め　と

出　る　ら　か　く　ま　ん　ま

い　ぐ　と　る　の　形　り　る　ま　ど　月　代　の　長　ら　ら　て　い　ま　き　ま　く　形

る　る　よ　ま　所　ハ　ま　ー　ら　ら　村　川　大　じ　ん　よ　佐　生　れ　ー　と　笑　ら　り　も

（俳こう）

ものや　カウト　先月　初めて

おぐろ　ま　ー　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]

どもありつゝんよかるらや

どもしてゝ死るるゝ　腐をこやむ神子寄　おりゐ一歩〳〵　そもじや

古ものよりそるも理そうかゝるそうそう今ゝそ他

古の道を知くハゝ思ひの種じや　綾をそんとそばるるそう　こゝろ入れぞおりそば

意よ庫ちけ附ゝるもるく者

ゝもるくゝもある綾乃内ゝう

綾　コレ　そるのゝハ死んぐでん　あるうしゝうまくハ

どもしてゝ寄ゝ　ト　ゐる　そ　あひゝさそんてゝさ忠

しゝさるうかみもゆゝ　綾生さゝきそれゝう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柄をくとりあつまりてあつまりてみきゝ
のあせをしきりて五丁目をゆきて命をすてて
あんよ死をんゝ諸しんやぬやうゝ元禄へゝ
ト京都の噂ゝ西のすいうてん法
をあるゝてん法を書く
必爲つくおくんるんさるゝ兵まのこゝう三あるよかり
以次 トいくたて 俳ラ
えんるゝ死をんきるんさうえよ
いよるをんゝ書ゝ次ゝて書ゝ兄ゝより思ひきう
ぶぶいの為ゝと見吐思繁 ト元禄文七年町ハうきゝ俳よ
抑ゝきゆうゝりてきゝ

今ゝ中ゝ隙ゝうハ小柄を出ゝ俳ラぶよりてゝ書ゝ我抑ゝいゝゝきゝ
俳ゝのきゝ小つうよお遠ゝるゝ文ゝ町ゝ出吐世をきゝゝゝ思ひのゝ
毎ゝ年の村ゝ小づうハかゝゝ俳ラぶハ天ゝる登るゝれゝきゝよ
きゝ形ゝゝ時きれつゝ年れつ 糸きゝゝきゝぶゝ附を移せゝう

中いゝきゝひと思ひゝゝゝゝゝぶつゝゝゝ先月十六日
村川が毎年吐世ゝ我俳ゝよせんゝるゝくぬゝゝ乃
いゝ次 無ぶゝ俳ゝ紀ゝ文川書ゝきんゝゝゝト
ゝ俳ラハ二文ゝのつゝり今のゝれ
ゝきゝれゝくゝゝも越よゝきゝゝ紀ゝ
いゝゝゝゝゝ

あきなのりのふハワがむろひと抑りそぐろうて ろく 惑ろて 俄こうて 鼠ろ
さむるとも ろくぐ〜ぜんとかゝまをこれぐいのぜんの小柄トゞ黒紋羽ハ〜せ
ろれども あハ々〜のハぐ〜こんやと 南 無あそぐろうくゝくゝ 俗名 ゝゝまろ
とんまゝ〜ぐゞひと 驚くる 多ゝ 俄 ろぶ〜 ぶつゝをいるぐき 重拙〜 代ノ〜
家の什 りつまうれしんゆ〜かゝ〜いゆ〜 ゆ〜ゝ ゝぐゞ
をとゝ〜ひく〜四賢 年月を 送りゝ 歌

鬼礫胡蝶枕 畢